



中川財務相が辞任

麻生政権 苦境に

G7会見 問題で 後任は与謝野氏が兼務

中川昭一財務相兼金融担当相(55)は十七日夜、麻生太郎首相と首相官邸で会い、先進七カ国財務相・中央銀行総裁会議(G7)閉幕後、もうろうとした状態で記者会見した問題の責任を取って辞表を提出、受理された。中川氏は同日昼の記者会見で、辞任する意向を表明していたものの、

辞任時期は二〇〇九年度予算案と関連法案の衆院通過後としていた。これを受け、首相は中川氏の後任に、与謝野馨経済財政担当相(70)を兼務で充てる方針を明らかにした。

中川氏が一転して十七日中に辞任したのは、政府、与党が週内の通過を目指す〇九年度予算案審議への影響を最小限に抑えるため。民主党など野党はこれに先立ち即時辞任を求め、中川氏の問責決議案を参院に提出し、辞任するまで審議を拒否する方針を決めていた。

中川氏の辞任劇は、いったんは続投を指示した首相の迷走ぶりを際立たせる結果になり、政権の一人層の求心力低下は必至と判断したとみられる。

中川氏は十四日、ロームで会見に臨んだ際、眠そうな様子で日銀の政策金利を間違えるなど、しどろもどろの様子が報道され、過度の飲酒を疑われた。十六日の衆院財務金融委員会の答弁では、G7閉幕後、ホテルに戻り昼食でワインに「口をつけた」ものの、「深酒」が原因との見方を否定。それらが回らなかったのは「風邪気味で、念のためと薬を倍近く飲んでしまった」と釈明した。



記者会見で辞意を表明する中川財務相
=17日午後、財務省

与謝野氏は、経済政策を通じて財政再建を目指す消費税増税派の代表格。